

機関リポジトリについて考えよう！

アーカイブングポリシーデータベース連携と  
制限公開からみる将来像

# 制限公開機能

国立情報学研究所  
朝岡 誠

図書館総合展  
2020年11月6日



# 発表の流れ

---

- 研究データと機関リポジトリ
  - 研究データ公開に対する研究者の意識
  - 研究データを公開する機関の取り組み
  - 制限公開の必要性
- JAIRO Cloudへの制限公開機能の実装
  - 4つの提供フローの設計
  - JAIRO Cloudへの実装
- 機関リポジトリへの応用

# 研究データと機関リポジトリ

---

- 研究データ共有の広がり
  - 公的資金による研究成果の公開義務化の流れ
  - エビデンスデータの公開を必須とする雑誌の増加
  - 研究データを公開する基盤の必要性
- 機関における研究データの扱い
  - 研究教育機関からのニーズ
    - 研究データの保存管理ルールは整備されつつあるが、次のフェイズとして研究データの公開を検討する必要がある
  - 機関の研究者からのニーズ
    - 査読用エビデンスデータの公開先として
    - 退官する研究者の研究データの公開先として

# 研究データ公開に対する研究者の意識

- 論文よりも、研究者からの懸念が強い
    - 権利関係や機密・プライバシー情報の取り扱い
    - 引用なしの利用、誤用・不正利用への懸念
- データの性質によって公開スタイルを変える必要あり

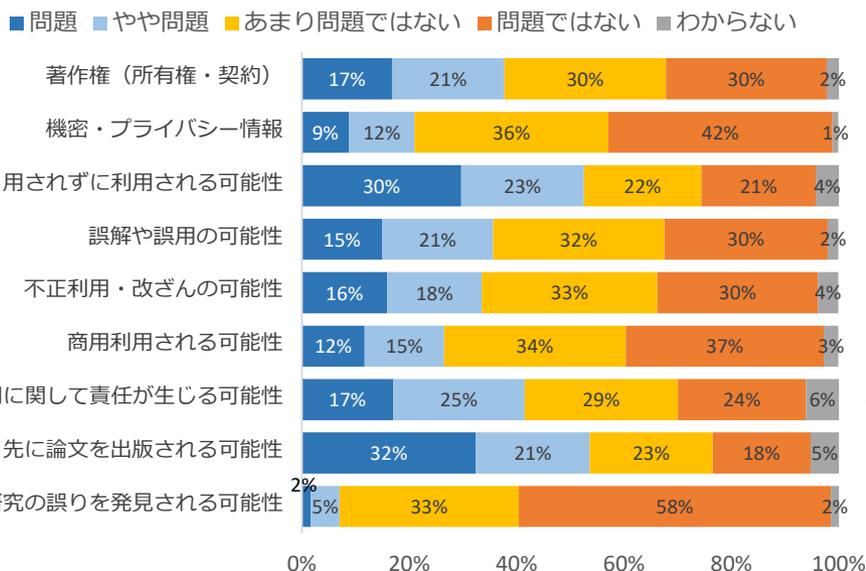


図1 論文のOAに対する懸念(N=1516)

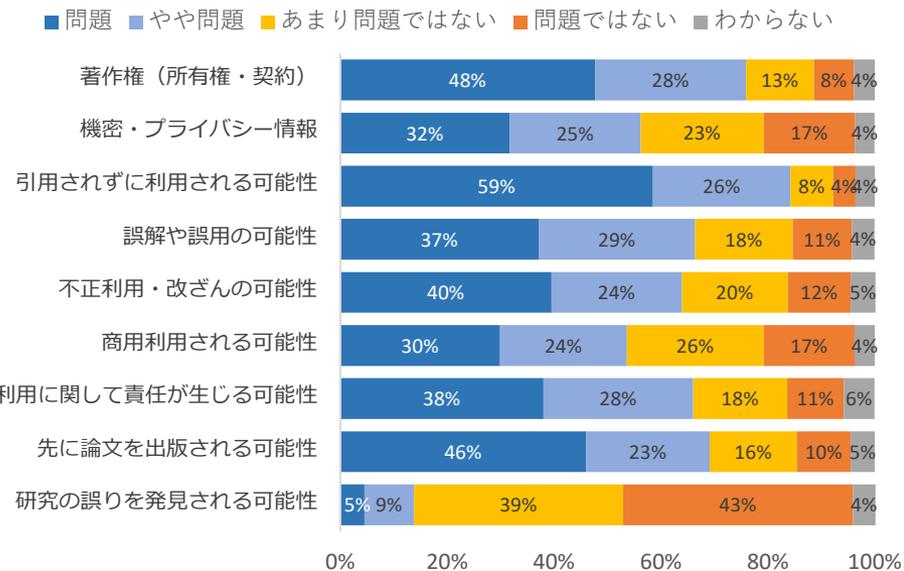
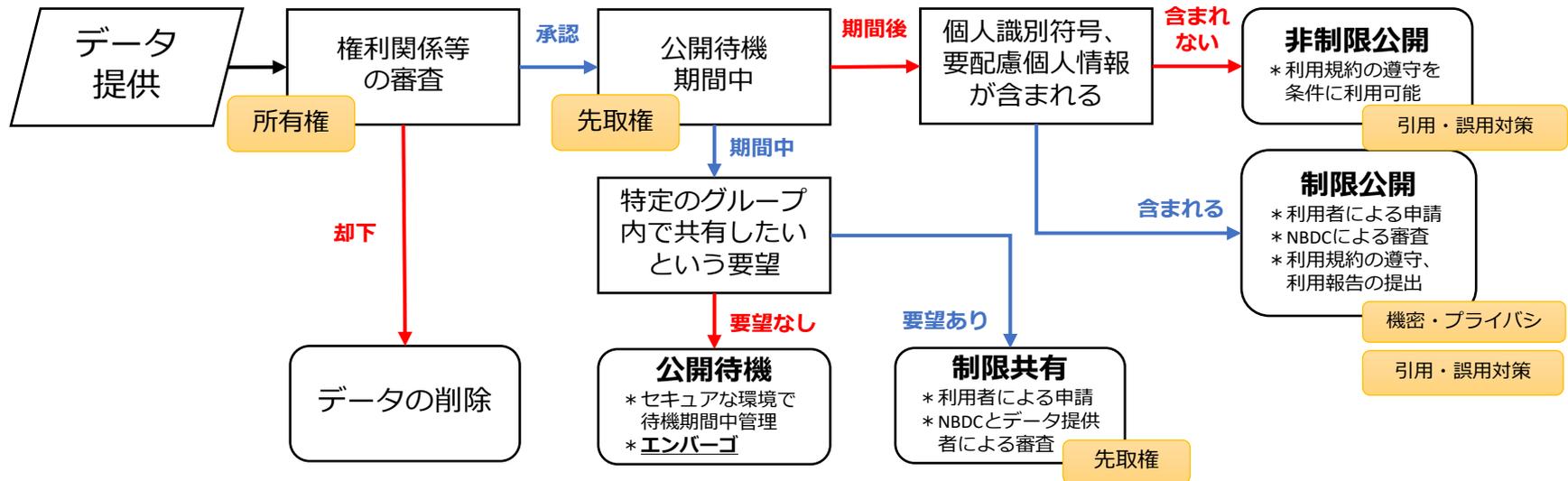


図2 研究データの公開に対する懸念(N=1513)

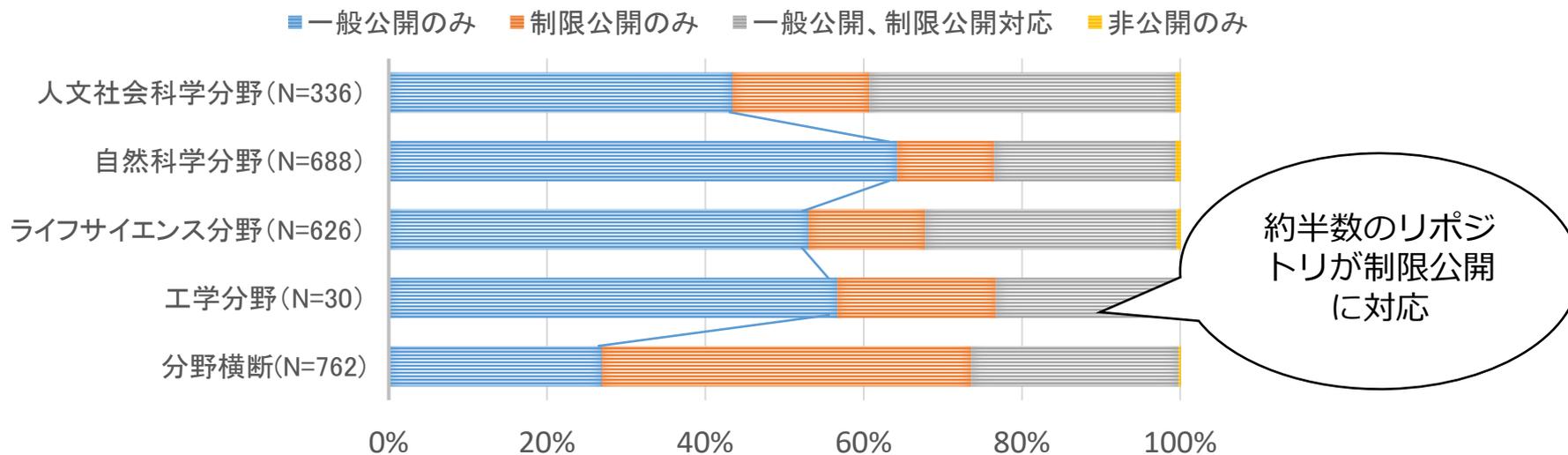
# 研究データを公開する機関の取り組み

- データポリシーに沿って複数のデータ提供方法を用意
  - NBDC (ゲノムデータ) のデータ公開フロー



- 制限公開：条件を満たした利用者へのみデータを提供
  - 機密・プライバシー保持の観点から医学、社会科学の分野で行われてきたデータ共有方法
  - 研究データ公開ポリシーが制定されていく中で、制限公開によるデータ提供が増えることが予想される

# 制限公開対応の必要性



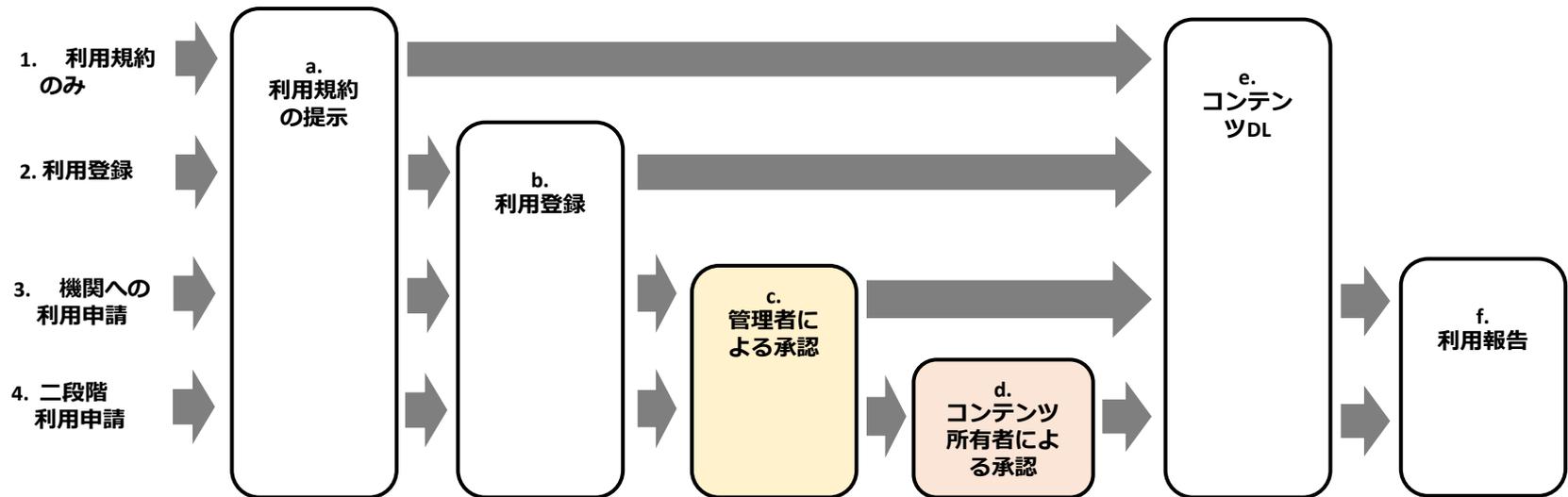
Re3data(<https://www.re3data.org/>) 2019年12月15日現在

## Re3dataに登録されたリポジトリにおけるデータへのアクセス方法

→社会科学分野だけでなく、他の分野でも研究データ公開のためには制限公開に対するニーズは大きい

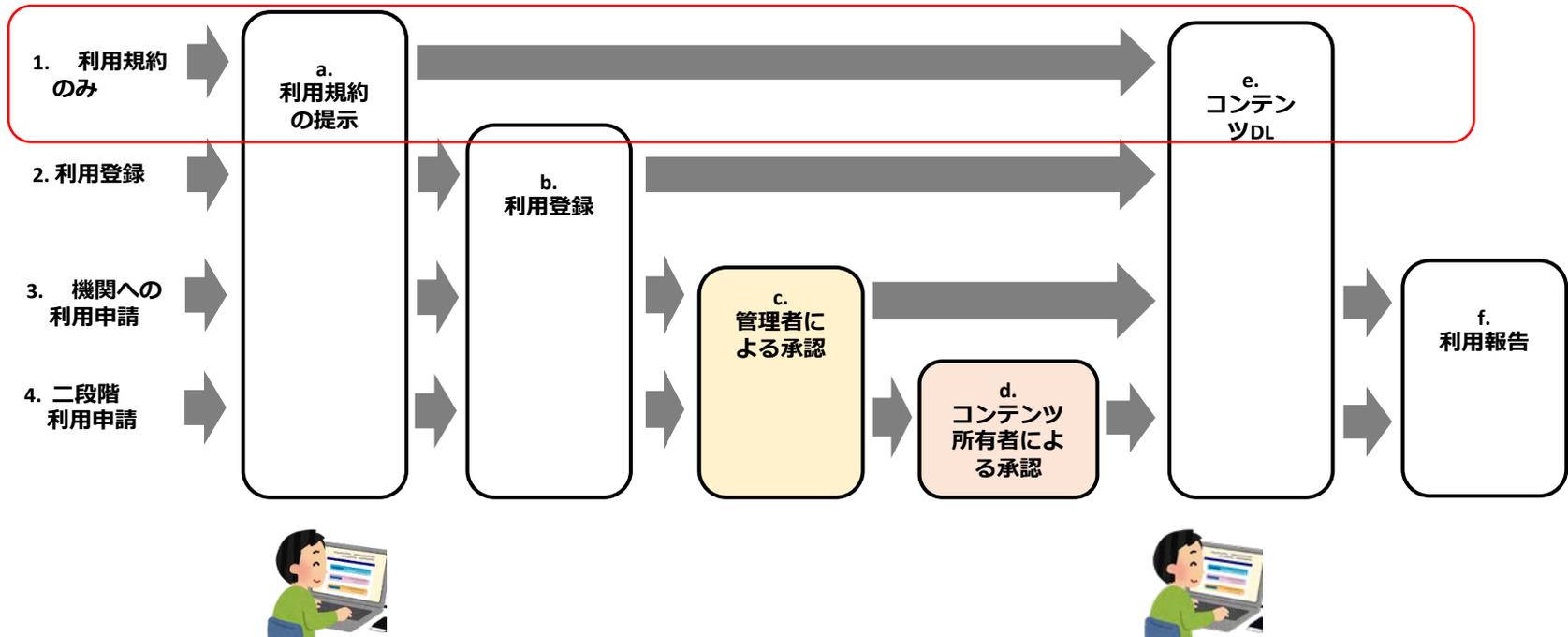
# JAIRO Cloudへの制限公開機能の実装

- 国内の研究機関の制限公開データの提供フローを類型化し、次の4つのフローを設計した。



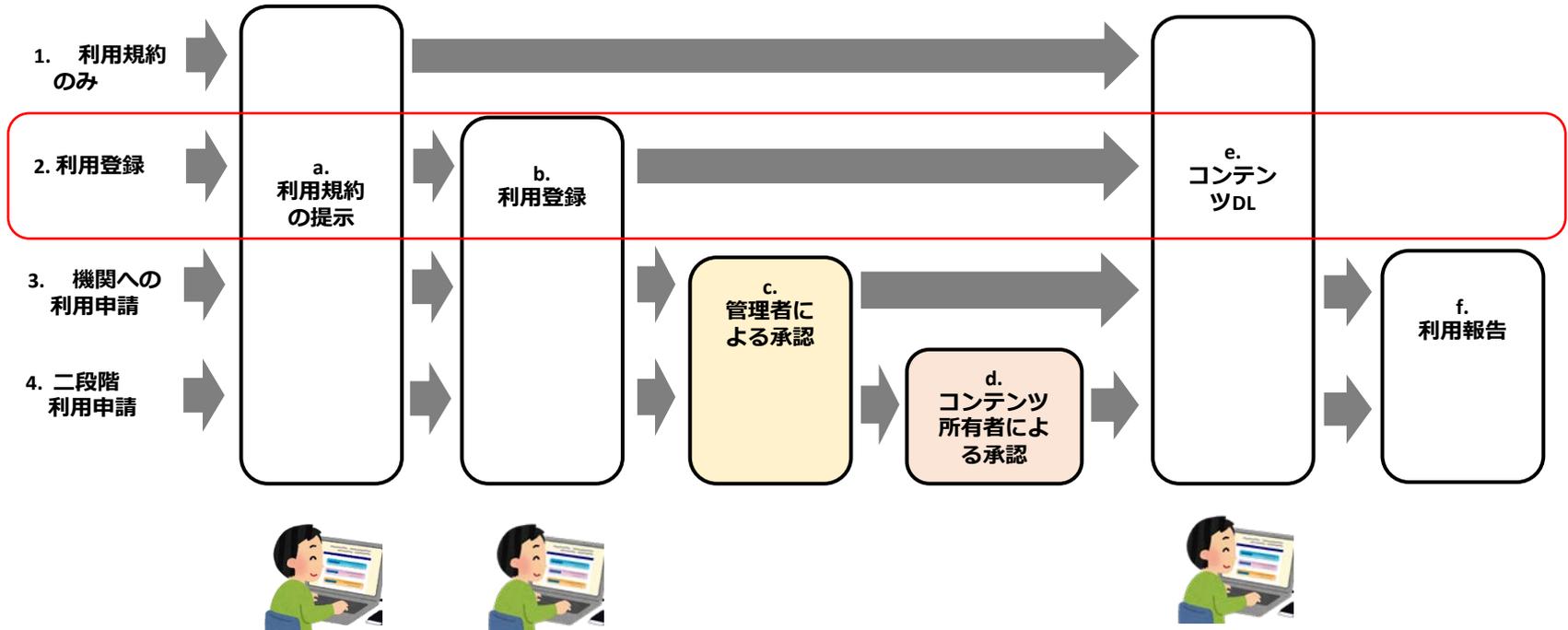
- A. 利用規約のみ：利用規約遵守をチェックすることでデータにアクセス可
- B. データの利用登録：利用者所属や利用目的などを登録することでアクセス可
- C. 機関への利用申請：利用者が登録した内容をリポジトリが審査する
- D. 二段階利用申請：  
利用者が登録した内容をリポジトリとコンテンツ所持者が審査する

# A. 利用規約のみ



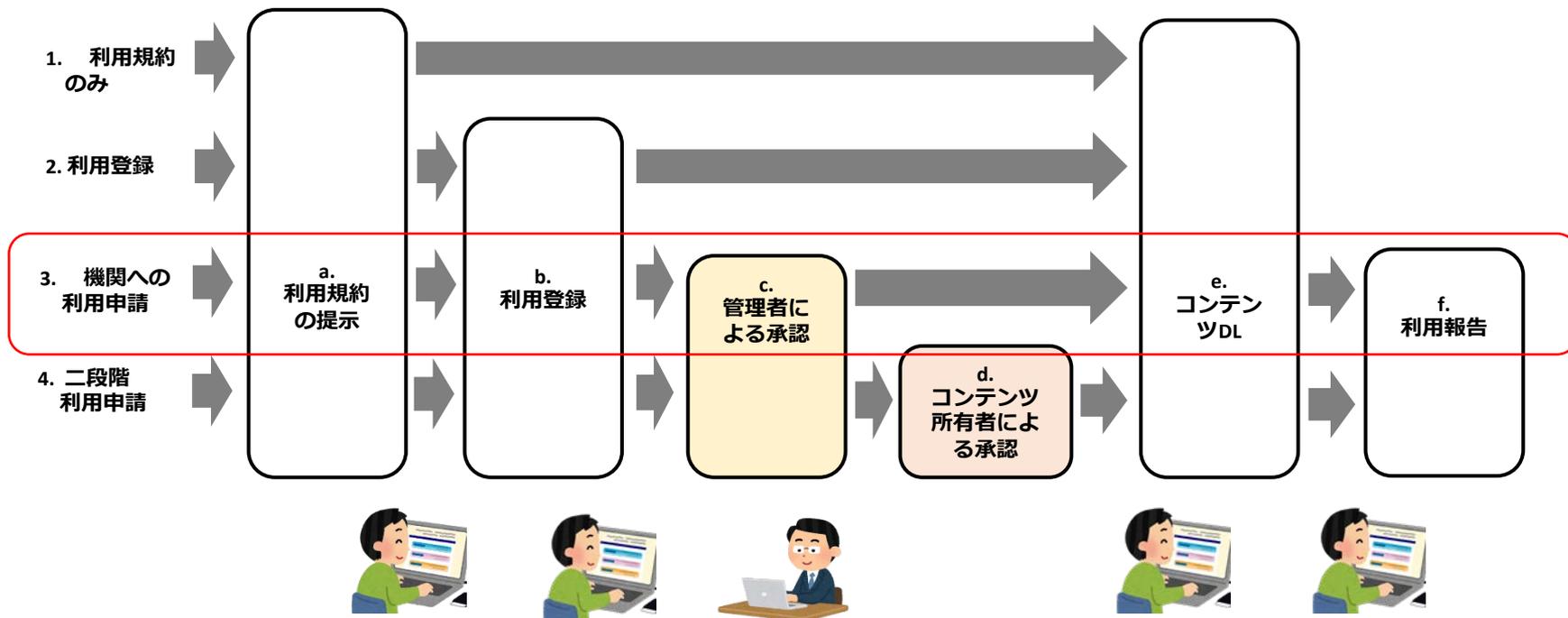
- コンテンツにアクセスすると利用規約が表示され、利用規約に同意することでコンテンツにアクセスできる  
→ ライセンスへの同意を取り付けることができる

# B.利用登録



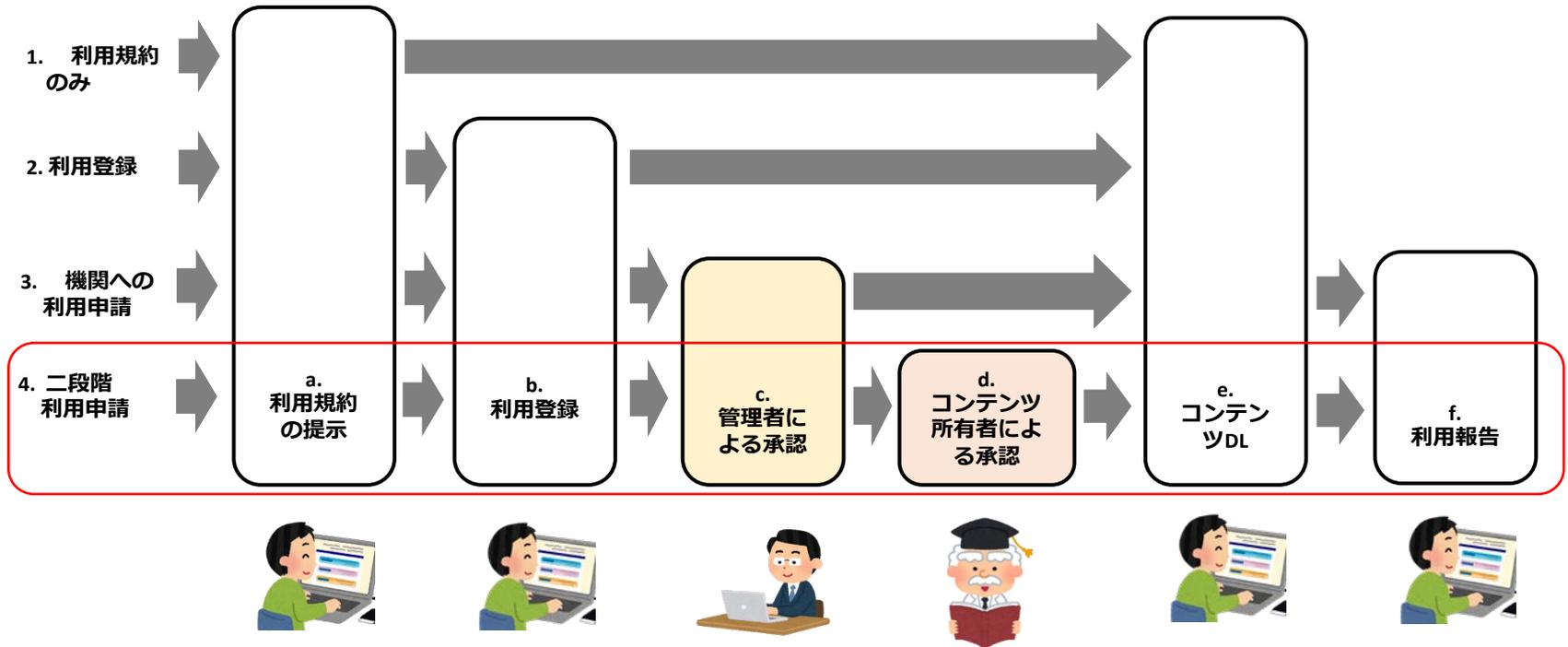
- 利用規約への同意後、フォームに利用者の所属、利用目的や研究計画等を登録することで、コンテンツにアクセスできる  
→利用者の身分や利用目的を控えることができる

# C.機関への利用申請



- 利用者の申請内容をリポジトリが確認し、承認後にデータ提供
- コンテンツDL後、利用期間内に利用報告を行う  
→機密性の高いデータを提供するために利用条件を審査可能

# D. 二段階利用申請



- 利用者の申請内容をリポジトリとデータ所有者で確認し、承認後にデータ提供

→ コンテンツ所有者による専門的な判断が可能

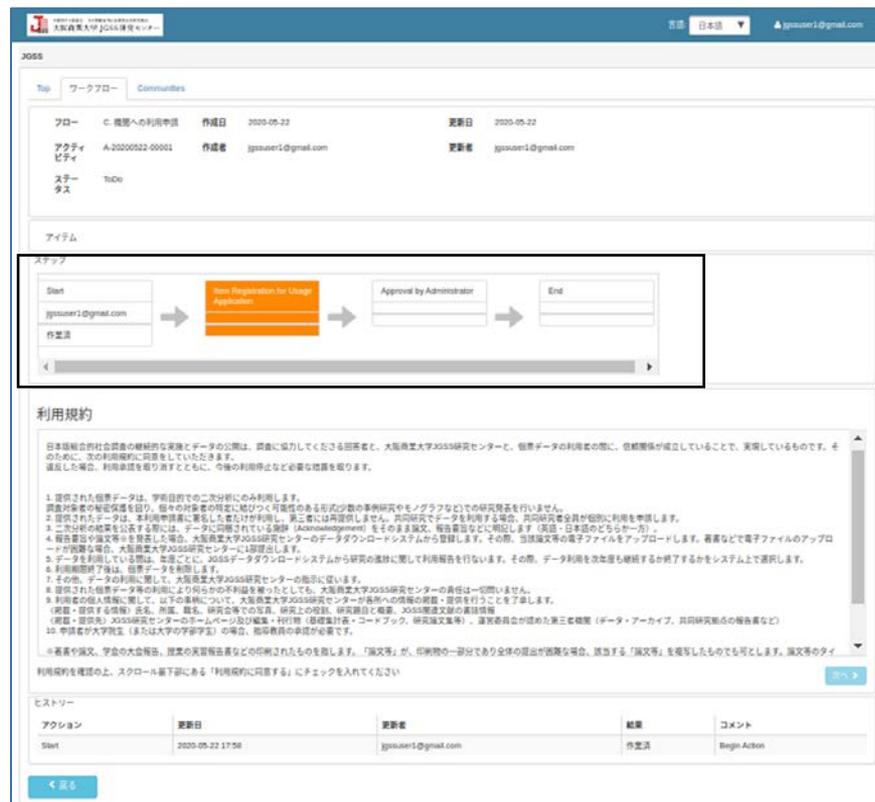
# 制限公開機能の実装

- 大阪商業大学 JGSS研究センターが設計した提供ワークフローを WEKOで実現した
- その他の提供ワークフローは現在開発中

C. 機関への利用申請



アイテム画面



利用登録画面

# 機関リポジトリへの応用

---

## 機関リポジトリで制限公開機能の運用

- 研究論文の公開のために
  - 研究論文に機密情報やプライバシー情報が含まれる場合
  - 引用や謝辞の明記、免責事項の提示
- エビデンスデータの運用
  - 査読論文のエビデンスデータ置き場として
  - 一部機密情報を含むエビデンスデータ
- 制限公開機能を利用したデータ提供
  - 学内研究プロジェクトによる利用
  - 紙申請による利用申請フローの電子化

→機関リポジトリで制限公開によるデータ提供を可能とすることで、公開が難しい研究データの公開を促進する

# RCOS

<https://rcos.nii.ac.jp/>

asaoka@nii.ac.jp

研究データの公開で相談したいことがあれば  
NII RCOSにご連絡ください！

本発表の一部は、JSPS 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業 JPJS00220180001, JPJS00218077184の成果です